

「開拓記念碑」

岐阜県郡上市高鷲町ひるがの高原

岐阜県の北西部に位置する郡上市高鷲町ひるがの高原（旧・郡上郡高鷲村蛭ヶ野高原）は、標高900～1000^{メートル}の豪雪地帯。夏は避暑地として、秋は紅葉狩り、冬はスキーと、一年を通して観光客が訪れる。戦後、蛭ヶ野・上野・切立^{うわのきつたて}の三地区で、緊急開拓事業が実施された。

大日ヶ岳の火山活動でできた扇状地であり、かつては、荒地と湿地が広がっていた。各地での開拓は、蛭ヶ野が最初。1940（昭和15）年、郡上郡の青年の鍛錬場が開設され、満州（現・中国東北部）に開拓移民として送り出された。

第二次世界大戦が始まり、戦況が悪化すると、食糧確保のために開拓が進められた。終戦後、46年に満州から引き揚げてきた開拓団員や戦災者ら約100世帯が三地区に入植し、本格的な開拓が行われた。

開拓当初からの方針で、酪農を目指した。まずは、強酸性だった土壌を改良し、主食となる作物を育て、生活の安定を図った。53年にサイロ・堆肥舎施設を建設。54年から乳牛を導入し、本格的に酪農事業が始まった。

また、焼き畑で開墾を進めながら、夏季の冷涼な気象条件を活用して、夏出しダイコンの作付けも行われた。

現在、ひるがの高原では酪農が盛んなほか、ダイコンを中心とした高冷地野菜の一大産地となっている。

同高原を縦断している国道156号線わきの広場に記念碑がある。碑銘は「開拓記念碑」。旧・高鷲村が78年に建立したもので、裏面には碑文が刻まれている。

その後段には、「四通八達した道路網は単に開拓入植者のみならず既存集落住民も亦之を多目的に利用することとなり、高冷地営農の確立とともに観光産業振興の端緒ともなり、ここにかけての荒野は転じて沃野と化し天の恵み地の利を最高度に享受していることはまことに感慨無量である」と記されている。

ひるがの高原 「開拓記念碑」

- ①調査日 2021年4月21日
- ②所在 郡上市高鷲町ひるがの高原
- ③地区の沿革 高鷲村大日山中腹の標高 900～1000 米の蛭ヶ野地区、上野地区、切立地区合わせて約千百七十八ヘクタールに及ぶ山林原野が土地保有者の協力で解放され入植。開拓先駆者の功を称え広く協力者に感謝を表した。
- ④設置年月日 昭和 53 年 10 月
- ⑤設置者 高鷲村
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 開拓記念碑
- ⑧碑文（裏面） 碑文 第二次世界大戦による敗戦の結果は、日本国内の情勢を根底から変革させた。これに伴い終戦直後立法化された開拓五カ年計画が遂行され、わが高鷲村にもいち早く開拓地建設が強く要請された。幸いにしして土地保有者の大乗的見地に立った協力により蛭ヶ野地区約五百八ヘクタール、上野地区約四百四十ヘクタール、切立地区約二百三十ヘクタール、計約千百七十八ヘクタールに及ぶ山林原野が買収され、その大部分が新入植者に譲渡された。爾来山下寛治氏を中心とする開拓者の心境を傾注した努力と公共機関の指導力とが相俟って新集落の誕生を見るに至った。
特に四通八達した道路網は単に開拓入植者のみならず既存集落住民も亦之を多目的に利用することとなり、高冷地営農の確立とともに観光産業振興の端緒ともなり、ここにかつての荒野は転じて沃野と化し天の恵み地の利を最高度に享受していることはまことに感慨無量である。ここに開拓先駆者の功を称え広く協力者に感謝を表し「開拓は地球を彫刻する最高の芸術である」の古諺を付して碑文とする。
昭和五三年十月 高鷲村長 簗島政一
- ⑨現在の状況 地区内で管理されている。



開拓記念碑の裏には次の文が刻まれています

第二次世界大戦による敗戦の結果は、日本国内の情勢を根底から
変革させた。これに伴い終戦直後立法化された開拓五カ年計画が
遂行され、わが高鷲村にもいち早く開拓地建設が強く要請された。
幸いにして土地保有者の大乗的見地に立った協力により、蛭ヶ野
地区約五百八ヘクタール、上野地区約四百四十八ヘクタール、切立
地区約二百三十八ヘクタール、計約千七百七十八ヘクタールに及ぶ
山林原野が買収され、その大部分が新入植者に譲渡された。
爾来山下勤治氏を中心とする開拓者の心魂を傾注した努力と公共
機関の指導力とが相俟って新集落の誕生を見るに至った。
特に四通八達した道路網は単に開拓入植者のみならず既存集落
住民も亦之を多目的に利用することとなり、高冷地営農の確立と
ともに観光産業振興の端緒ともなり、ここにかつての荒野は転じ
て沃野と化したの恵み地の利を最高度に享受していることは
まことに感慨無量である。

ここに開拓先駆者の功を称え広く協力者に謝意を表し
「開拓は地球を彫刻する最高の芸術である」
の古諺を付して碑文とする。

昭和五三年十月 高鷲村長 蓑島政一

